

増穂だより

M A S U O D A Y O R I

中学卒業式典号



芝浦工業大学柏中学高等学校

<http://www.ka.shibaura-it.ac.jp>

〒277-0033 千葉県柏市増尾700番地

TEL 04-7174-3100(代) FAX 04-7176-1741

編集 総務部

発行日 令和7年3月21日

印刷所 株式会社横濱綜合写真

格物致知

— 24期生卒業 —

2024年度芝浦工業大学柏中学校卒業式式辞

校長 中根 正義

「ありがとう」の数だけ……

増穂城址総合公園の森にも、春の息吹が感じられる季節になりました。芝浦工業大学柏中学校第24期193名の皆さん、卒業おめでとう。

保護者の皆さんは、ここに集う子どもたちが生まれたばかりの頃、東日本大震災や、それに伴う原子力発電所の事故があり、家族の安全や健康をどう守るか、非常に苦労されたのではないのでしょうか。また、小学校高学年から中学入学にかけては、新型コロナウイルスの感染拡大と収束に向けた動きの中にありました。

そうした中で、時には力強く、時には温かい気持ちでお子さまたちを支えられたのではないのでしょうか。改めて、保護者の皆さんにお祝い申し上げるとともに、本校の教育にもご協力いただいたことを、心より感謝申し上げます。

さて、皆さんが入学してきた3年前を振り返ると、集団行動がうまくできなかったり、運動不足からくるケガが多かったり、コロナ禍の影響もあり、さまざまな問題が生じていました。それが進級とともに、大きく成長してきたことを実感しています。

私は一昨年のグリーンスクール、昨年9月のニュージーランド(NZ)宿泊研修で、皆さんと行動を共にしました。福島県南会津町にある芝浦創造の森での枝打ち体験や飯ごう炊さんなどは楽しい思い出です。NZでは、生徒の皆さんがすぐに現地の生徒たちと打ち解け、受け入れ先の校長先生から「日本各地から生徒を受け入れているが、こんなに最初からフレンドリーになる生徒たちはいない。素晴らしい!」と驚かれました。

また、昨年10月に開催された体育祭の応援合戦では下級生たちをまとめ、ベテラン教員が「これまで見たことがない」と話すほど、見応えのあるパフォーマンスを披露してくれました。年末の合唱祭では、直前にインフルエンザが流行し、満足な全体練習ができない中、SNSを活用するなど工夫した練習をすることで、当日は素晴らしいハーモニーをホールに響かせました。

そして、何よりも皆さんの成長を実感するのは身長でしょうか。入学時は私より背丈が低かった皆さんがかわいらしい声であいさつをしてくれましたが、今は背の高い生徒がたくさん増え、大人

びた声で言葉を交わしてくれるようになりました。

言葉と言えば、映画監督として知られる大林宣彦さんの名言に、次のようなものがあります。

ひとは ありがとうの 数だけ かしくなり
ごめんなさいの 数だけ うつくしくなり
さようならの 数だけ 愛を知る

大林さんは生前、自身の作品で使われる言葉として「ありがとう ごめんなさい さようなら」を大切に、これを映画の基本にしていると語っていました。「ありがとう」は出会いへの感謝であり、「ごめんなさい」は出逢った人からもらったものの大きさに対して自分があげることができなかった多くの事についての申し訳なさ、「さようなら」は、別れの際の礼儀としてのものです。

この言葉は、映画「花筐 / HANAGATAMI」や「海辺の映画館—キネマの玉手箱」に出演した俳優の満島真之介さんに大林さんが贈ったもので、彼の死後に放送されたテレビ番組で満島さんが紹介し、一気に知られるようになりました。

大林さんは広島県で生まれ、80年前の戦争を体験しました。戦争がない平和な世界を願う彼の思いが紹介した言葉に凝縮され、この思いさえ持ち続け、相手を尊重する気持ちさえあれば争い事はないというメッセージが込められています。また、こんな言葉も残しています。

自分らしく失敗しなさい。

結果がどうであれ、自分が納得できることに全力で取り組んでほしいという思いがあるのではないのでしょうか。皆さんは4月から高校生として新たな生活を送ることになります。「ありがとう ごめんなさい さようなら」という言葉の大切さをかみしめながら、失敗を恐れず、将来の夢に向かって進んでいってください。

卒業生の皆さんの益々の活躍とご臨席の皆様のご健勝を祈念し、式辞といたします。

目次

校長式辞 / 式次第	1 P
表彰 / 校歌	2 P

一、開式の辞	一、卒業生代表の言葉	一、在校生代表の言葉	一、学校法人代表祝辞	一、校長式辞	一、賞状・賞品授与	一、卒業証書授与	一、開式の辞
一、校歌斉唱	一、卒業生代表の言葉	一、在校生代表の言葉	一、学校法人代表祝辞	一、校長式辞	一、賞状・賞品授与	一、卒業証書授与	一、開式の辞



創立者有元史郎記念賞・優等賞

D組

この度、このような素晴らしい賞を頂けたことを大変嬉しく思います。

「努力をやめたら、自分の良さはすべてなくなる」という意識を常に持ち、中学三年間、さまざまなことに全力で取り組んできました。何度も挫けそうになり、諦めかけたこともありましたが、共に切磋琢磨してくれた友人たち、常に力を貸してくれた家族、そして多くの先生方のおかげで最後まで目標を達成することができました。本当にありがとうございます。

この3年間を通して目標を掲げ、それに向かって努力を続けることの大切さを学びました。この経験が私を大きく成長させてくれたと感じています。

今後もこの受賞に満足せず、さらに努力を重ね、高校生活でも高い目標を持ち続けたいです。

千葉県私立中学高等学校協会賞・優等賞

D組

この度は、このような素晴らしい賞を頂けたことを大変嬉しく思います。受賞できたのは、私だけの力ではなく、いつもサポートして頂いた先生方や家族、協力し合えた友人がいたからです。新しいことを学ぶ過程では、時には苦労や挫折を感じることもありました。特に、限られた時間の中で学業と部活動の両方に全力を尽くすことは簡単ではありませんでしたが、「あともう一步」と自分を鼓舞したことで、その経験が私を大きく成長させたと実感します。今回の受賞は私にとって励みとなりました。ですがこれで満足せず、これからもより一層努力し、さらなる高みを目指していきたいと思います。また、中学三年間で培った経験をこれからの生活で活かせるよう頑張ります。ありがとうございました。

毎日が喜び

芝浦工業大学柏中学高等学校校歌

小 椋
川 辺

真 佳

作 詞
編 曲

一、 緑と実り 自然の恵み

抱かれて建つ 白い学び舎

出逢う友は皆 輝く太陽のかなた

無限の宇宙へ 挑む翼を磨く

伝統を築くものたち

新しい道を 拓くものたち

柏の青春 毎日が学ぶ喜び

二、 伸びやかな風 行く大津川

深い想いの 城址公園

集う友は皆 あふれる友情をかかえ

それぞれの夢に 熱い誓いを結ぶ

責任を果たすものたち

自由な心を抱くものたち

柏の青春 毎日が学ぶ喜び

柏の青春 毎日が生きる喜び